

平成26年
蓮田病院
統一標語

輝
かがやき

蓮田病院広報

第32号 4・5月号

東日本大震災により
被災された方々、ご家族
の皆さまに心より
お見舞い申し上げます。

蓮田病院職員一同

日本はひとつ

蓮田病院理念

“思いやりのある やさしい医療”
“最新の高度医療”

発行：蓮田病院広報部
連絡先：048-766-8111 蓮田病院総務課
発行日：平成26年4月1日

当院でも[DPC/PDPS]の 運用が始まります！



医事課係長 宇田和宏

ご存じの通り、日本の総医療費は毎年約一兆円ほど増加し続けています。これには色々な要因がありますが、私たち国民の生活を圧迫していることは間違いありません。

しかし、政府も医療費を抑えるべく常々策を巡らせてきました。20年ちょっと前は、処置で使うガーゼも保険請求が認められていたのです。その後“包括”という考えが進んで、処置でガーゼを使うのは当然！とばかりに「処置料に含まれる」とされました。

今では、手術に使う消毒薬ですとか、療養病棟における一部の医療行為は包括とされ保険請求はされていません。これは医療機関にとって持出しを意味し、非常に苦しい台所事情がありますが、今回はその点については触れません。

話は変わりますが、私たち医療機関は国が定めたルールに沿って保険請求をさせて頂いています。でも人の体は千差万別で同じ病気でも地域によって、医療機関によって或いは患者様によって治療内容が変わります。この「差」によっても総医療費をコントロールすることは難しいことだと言えます。

そこでアメリカに遅れること15年。1998年にDPC/PDPSという策が生まれました。

直訳すると「**D**診断 **P**手順の **C**組み合わせに基づく **PD**一日あたりの **P**支払金額 **S**システム」となりますが、“(急性期医療における)包括化”と置き換えられると思います。

診断群ごとに認める入院期間と診療報酬が定められていて、診断群の分類は現在2241分類あります。まず疾患に対し手術の有無、ついで指定医療行為の有無、指定副傷病の有無を確認して診断群に分類するのです。

これで前述の「差」が解消されるのではないのでしょうか？しかし、一入院で一つの病気に対してのみ診療報酬が認められるなど弊害もあります。他にも色々ありますが紙面の都合でお伝えしきれず申し訳ありません。

この制度には、全国で約90万床ある一般病床の半分以上が参加しており、蓮田病院も平成26年4月より参加いたしました。ご理解のほどお願いいたします。

ただ、診療報酬制度は2年に一回見直されており、DPC制度も都度変化しています。DPC制度を育てるのは、医療機関の努力と患者様の声だと思えます。この制度の行く末をしっかりと見据えて行きたいものです。

「糖尿病と認知症」



病院長・総合診療科 石田孝雄

糖尿病で通院治療されている患者さんは多く、ますます増加傾向にあるようです。初期の糖尿病は食事や生活習慣の改善で軽快いたしますが、糖尿病薬の投薬によってコントロールしないといけない方が9割近くもおられます。ご存じの通り、糖尿病を放っておくと眼、腎臓、神経、血管が痛めつけられるのですが、案外知られていないのは、糖尿病と認知症の関係です。血液の中の糖の濃度はインシュリンというホルモンが働いて、一定の濃度に保たれておりますが、じつは、糖の濃度が極端に上がったたり下がったりすると脳の神経細胞が痛めつけられることがわかってきました。また、インシュリン自体の濃度の変化も神経細胞に微妙な影響を及ぼすとされております。糖尿病が長引くと神経が痛めつけられたり、あるいは、痛めつけられて損傷した脳細胞がそのまま修復されなかつたりします。当然、脳の神経細胞が損傷することで、各種の神経機能が低下するのです。ある調査では、高齢者で認知症のある方に糖尿病が多いという結果が出ており、逆に、糖尿病のある方が認知症になりやすいと言う意見が出ております。認知症があると、服薬がおろそかになったり、あるいは栄養管理が不十分になることで糖尿病が悪化することが予想されます。お一人住まいのご高齢の方、また、老老介護の患者さんにとっては、糖尿病は面倒な病気です。また、糖尿病により神経組織が長年にわたり痛めつけられている状態が継続することで、脳神経が衰え認知症に至ることも考えられます。

糖尿病の発症は若い時期ですが、せっかくこれから『ハッピーリタイア』と『豊かな老後を送ろう』と考えているときに糖尿病が現れ、血糖管理をおろそかにしていると、認知症に陥る時期が早まります。軽度の糖尿病の方こそ、いろいろな神経機能を悪化させないための十分な方策をとっておくことが大切です。当院総合診療科では、あらゆるお薬を動員して糖尿病コントロールに邁進しております。お悩みの方は気軽に受診・ご相談ください。



◆◆◆入退院支援室の新設について◆◆◆

入退院支援室新設プロジェクト委員長
医局長 上田朋範

入退院支援室とは、患者様が安心して入院治療を受け退院できることを目的に入院(決定)時や退院時等に患者様へ様々なサポートを行うために新設された部署です。一階正面入口左奥、C棟のエレベーターと病診連携室の間にあり、平成26年4月から正式運用が開始となりました。看護師、医療ソーシャルワーカー等が担当し、各外来や病棟、病診連携室などと協力し「入院・退院の手続きや説明」、「他の医療機関や介護施設等との担当者やケアマネジャーとの連携」、「持参薬の確認と説明」、「入院や退院に際しての不安解消」を主な業務とし、入院前から患者様やご家族様の手助けをして参ります。

入院に際し、入院のご案内等の説明資料を用いて、準備するものや入院中の生活などの一般的な説明はもちろん行いますが、患者様の病状やご事情に応じ、利用できる社会保障制度や限度額適応認定証等の各種医療費助成制度についての説明もさせていただきます。限度額認定証とは所得に応じてその額が異なりますが、事前に申請いただくことによって、窓口での支払額が一定以上にならないようになっているシステムで、入院でかかる金銭的負担を少しでも軽くする方法もあります。もちろん、あとからでも高額療養費制度を利用することにより、払い戻しを受けられるケースもあります。また、生命保険会社等に提出する診断書が必要でしたら、医師と調整し、診断書の手配もいたします。詳細については、入退院支援室で担当から説明を聞いていただくとよりわかりやすいと思います。

また、病院や診療所等でお薬をもらっている場合、「おくすり手帳」を活用されていると思います。おくすり手帳や実際に内服されているお薬を持参していただければ、入退院支援室で薬剤師によるお薬の確認と説明もさせていただきます。入院される方の中には、検査や手術のために中止しなければいけないお薬を服用されている患者様もいらっしゃいますが、確認させていただくことによって、間違っただけ服用しないように、また、円滑に検査や手術が受けられるようにサポートさせていただきます。

「まだリハビリを続けたい」「介護が必要だが介護できる人がいない」など、すぐに自宅へ帰ることが難しい場合、患者様の病状や状況に適した療養先をご一緒に検討させていただきます。例えば、リハビリ病院や療養型病院、または特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム等様々な種類の病院・施設があり、病院・施設ごとに内容が異なりますので、患者様に最も合った施設を探せるようお手伝いさせていただきます。

血圧や血糖値等の疾患、アレルギーや好き嫌いなどで入院中の食事に不安を抱えている場合もぜひご相談ください。管理栄養士とご相談いただく事で、患者様のご事情に応じた食事の提供ができるよう配慮いたします。

上記に挙げた以外にも様々な支援をさせていただきますので、様々なご相談をいただければ、解決へ向けたお手伝いや、適切な相談窓口への橋渡し役をさせていただきますので是非お気軽にご相談ください。



診療技術部

伊勢谷 理奈(放射線技師)
関田 里奈(臨床検査技師)
宮澤 あや(臨床検査技師)
太田 夏実(臨床工学士)
原田 貴子(理学療法士)
野川 史織(歯科衛生士)

♠ 26年4月1日 新採用のご紹介 ♠

医師

山口 真彦(外科)
近藤 純由(外科)
浅川 文香(外科)
寺山 恭史(整形外科)
川崎 陽子(歯科)

薬剤部

加藤 卓(薬剤師) 永倉 由記子(薬剤師)
中野 陽介(薬剤師)

事務部

真嶋 絵美 川崎 浩美
黒川 詩織 高橋 真友

看護部

奥田 さつき(看護師) 森田 晶代(准看護師)
森田 恵(看護師) 伊藤 美江(准看護師)
井上 真奈美(准看護師) 武田 舞(准看護師)
内藤 マキ子(准看護師)

編集後記

つい先日まで寒い寒いと言っていたはずなのに、気がつけば桜の季節がやってまいりました。当院の表通りにも毎年桜がきれいに咲いております。桜と言えば桜の葉で包まれた、桜色の餅の中に餡が入っている和菓子...桜餅が食べたくなる頃ですね。私達が食べている桜餅と言えば小麦粉メインの生地を焼いた「長命寺」を思い出しますが、関西では、「道明寺」といって、もち米を蒸して乾燥させて砕いた道明寺粉を使った桜餅が有名です。桜を楽しみながら日本の文化を大切にしていきたいですね。

広報委員 内田彩華

蓮田病院公開講座のお知らせ

日時：平成26年6月6日(金) 14:00~15:10
場所：蓮田病院内 C棟6階
講師：1. インプラント治療の基礎知識
歯科口腔外科医師 (田中憲一)
2. 歯を長持ちさせるためのクリーニング方法
歯科衛生士 (尾崎尚子)

参加費：無料
問い合わせ：蓮田病院 病診連携室
TEL 048-766-3660